

インドネシアの金利引き上げについて

2013年8月30日

インドネシア中央銀行は8月29日(現地時間)に緊急の政策決定会合理事会を開き、利上げを発表しました。政策金利であるBIレートの0.50%引き上げられ7.0%となりました。同時に翌日物預金ファシリティー金利(FASBI)を5.25%(+0.50%)、貸出ファシリティー金利は7.0%(+0.25%)としました。

発表後、異例のことであったため為替レートは反発しましたが、依然として対ドルでは2009年4月以来の低水準に、対円では今年の安値圏にあります。

《最近のインドネシア・ルピア、金融市場の動向》

インドネシア中央銀行は前回の理事会(8月15日)では減速のみられた景気への配慮から政策金利の据え置きを決めました。しかし一方では為替・金融市場への対応として金融市場オペレーションの強化、長期的な通貨価値の維持、銀行監督制度の導入などの安定化策を発表しました。また政府も23日に輸出業者による外貨購入についての規制を緩和しドル流動性の確保を目的とした措置の導入、企業向け税優遇措置の拡大、一部輸入品への増税、鉱物資源の輸出緩和などからなる緊急経済対策を発表しました。

これらの政策の実施、為替市場への介入にもかかわらず、為替レートの下落基調に変化はみられず、市場金利についても8月に入り低下に向かうなど一時落ち着きをみせていましたが、同理事会後には追加利上げ観測が強まり上昇に転じました。

《緊急利上げの狙い》

緊急利上げの目的は為替レートの安定化ですが、そのためには①インフレ圧力の鎮静化、②海外資本の流出抑制、の2点が必要と考えられます。

- ① インドネシアでは6月に政府負担による燃料補助金の削減が開始されました。このためインフレ圧力が高まり、7月の消費者物価(前年同月比)は前月の5.9%から8%台まで上昇し景気への影響が懸念されています。
- ② インドネシア国債は多くの海外投資家が保有しています。高い金利を維持し資本流出の抑制を図りたい考えがあるとみられます。

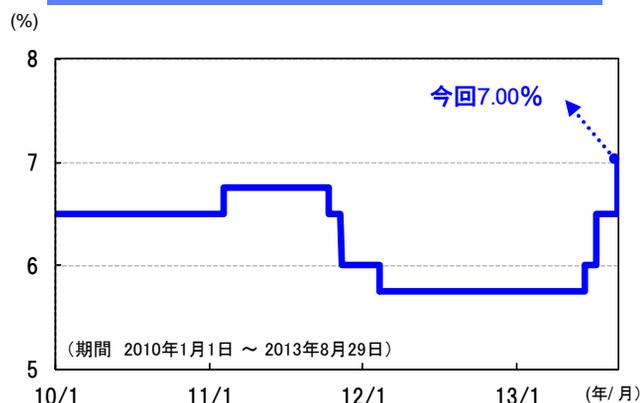
8月28日には同国財務大臣が海外主要投資家向けに前述の政策パッケージや経済ファンダメンタルズの説明に加え、経常収支の赤字削減に取り組むこと、財政による景気刺激策により経済成長を維持すると述べています。

財務大臣・中央銀行が経常赤字の削減と通貨防衛に強い意志を示したことで市場のセンチメントが変化してくる可能性もあり、弊社では今後とも同市場動向に注視してまいります。

なお、為替レートの急落の背景については弊社ホームページ掲載「インドネシア・ルピアの急落と市場金利の上昇について」をご参照ください。

http://www.myam.co.jp/up_pdf/20130826154201_f.pdf

《インドネシアの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《インドネシア・ルピアの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。